

2024年度水俣フォーラム 事業報告

2024年度もっとも大きな力を注いだ事業は水俣・京都展であり、前年度同地で開催し満席となつた第19回水俣病記念講演会を受けて、さまざまな個人や団体の参加・協力を得ながら開催準備を進めた。130名のボランティアスタッフ、協賛38団体など、相応の広がりを生み出せたものの、入場者数は6,287人であり1万人とした目標を達することはできず、事業収支も厳しいものとなつた。一方、熱心に鑑賞する来場者が多く、報道機関などからも高い評価を受けた。東京で行った第20回水俣病記念講演会は満席となり、新作能「不知火」のDVD上映などの水俣セミナーも多くの来場者を得た。今年度は、コロナ禍のため数年開催できなかつた事業も再開した。水俣病読書会は20名あまりの参加者を集め、「水俣への旅」も25年5月の開催に向け定員を倍増し準備を進めている。また、存亡を賭けた事業となる2026年の水俣病70年展の開催を決定することができた。多くの方に来場していただくために、会員会友の協力を得て、2025年度からさまざまな事業と連携させながら準備を進めていきたい。

1. 水俣展

- ①京都展 2024年12月7日～22日（16日間）、みやこめっせ、計6,287人
- ②70年展 開催を決定（2026年11月、渋谷ヒカリエホール）
- ③その他 2028年仙台展の調査・働きかけ

2. 講演会開催（いずれもオンラインを併用）

- ①記念講演会 第20回の開催（4月29日、東京・有楽町朝日ホール、747人、うち来場597人）
第21回の開催準備（2025年4月26日、くまもと森都心プラザ、489席）
- ②水俣セミナー 2回開催、新宿・常円寺、アテネ・フランス文化センター、320人（うち来場218人）

3. 機関誌発行

- ①水俣フォーラムNEWS 今年度は発行に到らず

4. 自主制作

- ①水俣展全図録の編集 制作実務着手に到らず
- ②展示物リニューアルの進行 制作実務着手に到らず

5. インターネットによる発信

- ①各種SNSでの発信（催し案内）

6. その他の事業

- ①水俣病読書会（シーズン8、3月12日～、11回）、22人（うちオンライン3人）
- ②水俣への旅の催行準備（2025年5月15～18日、第17回、40～47人）
- ③水俣病ライブラリーの恒常的整理（書籍、映像、写真、音声）

7. 水俣病関連書籍の出版編集協力

- ①石牟礼道子エッセイ集

8. 総会・理事会・運営委員会

①総会 6月15日、出席者30名、書面表決者582名（正会員950名）

②理事会・運営委員会 合同運営委員会7回、出席率90.1%

9. 事務所機能向上のための取り組み

①事務所の書棚とファイル棚の整備

②倉庫の整理と不要制作物・資料の廃棄

10. 助成、補助金等

①環境再生保全機構地球環境基金25年度助成金申請

「水俣病70年の経験の若い世代・国外への普及啓発と継承のための活動」

3年計画の1年目、600万（上限）を申請し、490万円内定

②新規助成・補助金等申請の検討

西日本文化賞への応募準備、熊本県水俣病公式確認70年関連補助金の調査

理事	実川悠太	理事長、常勤	70歳	西東京市
	東郷佳朗	副理事長、神奈川大学准教授（法社会学）	57歳	横浜市
	郡山リエ	副理事長、元・福祉施設職員	76歳	厚木市
	瀬戸口裕子	都立深沢高校教員	50歳	練馬区
	渡辺純規	事務局非常勤、元・都立高校教員	69歳	川崎市
	石井由樹子	事務局非常勤、森のようちえん葉山「もりのわ」代表	51歳	横須賀市
	渡邊一	医学書院社員	52歳	新宿区
	服部直明	事務局長、常勤	58歳	川崎市
	(なお、理事は運営委員を兼務することとする)			
運営委員	豊野堯	月刊バレーボール編集長	48歳	荒川区
	木全由規	留学コーディネーター	54歳	八王子市
	高橋豊	元・中学校教員	65歳	志木市
	大石貴裕	ビル管理会社社員	51歳	中野区
	澤村実希	日本点字図書館職員	46歳	新宿区
	宮田久美	主婦	42歳	名古屋市
	大八木勉	事務局非常勤、日本映画大学職員	48歳	世田谷区
	梁取優太	事務局常勤	30歳	さいたま市
	後藤美穂	事務局非常勤、主婦	66歳	川崎市